

生徒が「何ができるようになったのか」を実感する機会に

新中学校学習指導要領と TOEFL Primary[®]の親和性

京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任

[三省堂 クラウンジュニア 編集協力委員]

今西 竜也

1. はじめに	P1
2. 小学校の外国語科における英語学習と関わって	P1
3. 中学校学習指導要領と関わって	P2
4. CEFRと日本の英語教育の位置関係	P6
4. 学習者の学習と指導者の指導に関わって	P12
5. おわりに	P13

1回分のTOEFL Primary [®] に含まれる語のうち各教科書で学習する語の数と割合				
3・4年	5・6年		中学校	
文部科学省	東京書籍	三省堂	東京書籍	三省堂
Let's Try	New Horizon Elementary	CROWN Jr.	New Horizon	New Crown
154	216	222	310	338
40.6%	57.0%	58.6%	81.8%	89.2%

※詳細は本文12～13ページ参照



Danke sehr

1. はじめに

本年度より中学校で新学習指導要領が実施され、教科書も新しくなった。パラパラと見てみるとやはり内容がずっしり詰まっていた、ちょっと億劫になってしまいそうだが、新しい学習指導要領の目標や内容に目を通せば、十分に変化の意味が理解できる。学習する中学生も大変ではあるが、教える側も骨が折れそうである。しかし、生徒がそれぞれの力を高め、未来に向かってい

く姿を想像すれば、よしやってやるぞと気合も入る。では、これからの指導はどのように変わっていけばいいのだろうか。新しい指導要領が求めている「何ができるようになるか」について、アメリカで開発され、世界の多くの国で実施されているTOEFL Primary[®]のテストの内容との相関に着眼しながら、その有効性を見てみることにする。

2. 小学校の外国語科における英語学習と関わって

今回の学習指導要領の改訂で最も変化があるのは、生徒のスタートラインであると考えられる。2020年度より小学校での外国語科での英語学習が始まった。新型コロナウイルスによる休校期間があったため、バタバタのスタートとなった学校もあるだろうが、来年には小学校で2年間しっかり英語を学習した生徒が中学生になる。5・6年生は検定教科書を使い、様々な表現を学習してきている。助動詞canや過去形、現在進行形など中学校で教えている言語材料をかなりの数学習している。しかも学習している語彙は、発信語彙と需要語彙を合わせて600～700語である。これほどにも高いレベルの生徒を教え始めるには今まで通りとはいかないだろう。ここで重要なことは、中学校での英語学習は文法を基

本とした学習であり、小学校では場面を基本とした学習であるということである。中学校の教科書ではそれぞれの単元に基本となる言語材料が設定され、さらに内容もある程度一貫性のあるものであるが、小学校では買い物をしたり先生紹介をしたりするほか、道案内や宝探し、思い出を語る活動など、バラエティに富んだ場面を経験してきている。後の中学校学習指導要領の目標や内容でも触れるが、場面が設定されている。特に日常的に現実で起こりうる場面が多く設定されている。このようにいろいろな場面での表現に対応できる力を見るという点においては、アメリカの学校や家庭、遊び場などを場面に設定して問う設問が、生徒の力を正しく測れるであろうと思われる。

3. 中学校学習指導要領と関わって

中学校の英語科では、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を示している。指導要領が変わると同時に大きな変化のように思われるが、評価の面から説明されているものを見ると、どのようなことを通して目指していけばよいのかが分かりやすい。令和2年に文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センターが出した「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校外国語）を見ていると、「内容のまとめ（五つ

の領域）ごとの評価基準」に関する項目がある。知識・技能に関しては、おおむね今まで学校で指導に重きを置いていた部分であろう内容が色濃く、知識は、英語の特徴や決まりに関する事項に示されていることを理解することが求められ、技能においてはそれぞれの領域において、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いてコミュニケーションを図る力が求められている。

思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度については、それらの内容を引用したい。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしている状況を評価する。
- ・「聞くこと」、「読むこと」は、日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている状況を評価する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

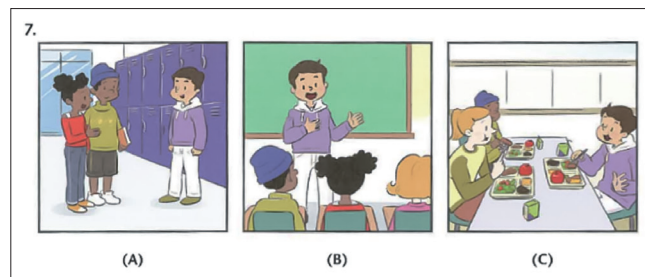
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する。
- ・具体的には、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」は、日常的话题や社会的な話題などについて、目的や場面、状況などに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしようとしている状況を評価する。
- ・「聞くこと」、「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況を評価する。
- ・上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

※下線は筆者による

コミュニケーションを行う際に、目的、場面、状況などを考慮し、必要な情報、概要、要点などを押さえるという行為は、英語を使ったコミュニケーションには欠かせない点である。これこそがまさに思考・判断・表現に直結するものであり、新しい言語材料、文法、表現、語彙などを学ぶ際には、切って離せないものなのである。さらに、主体的に学習に取り組む態度においては、言葉の背景にある文化や、相手と自分との関係性をとらえることが必要であり、また思考・判断・表現における課題に意欲的に取り組む姿勢が求められている。これらのことを踏まえて、学習者が実際にはどのような場面でどのような目的を持って、どのような関係性の人物と、英語を使ってコミュニケーションを図るのかということが、新指導要領の求める先であることが分かるであろう。

上記3つの目標の中で、小学校では慣れ親しみとして設定されていた「読むこと」「話すこと」を高次化し4技能の統合的な育成に言及している。また、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解する力にも言及している。場面を明らかに設定して伝え、その中でどの

ような内容を、どの力を使って扱うのかという点においては、小学校での場面を設定した学ばスタイルと似ていると考えられる。TOEFL Primary®においてはほとんどの設問において場面が設定され、ほぼすべてが学校や家庭、公園、町の路上など、中学生の生活圏内である。



Listen to a story about Ben.

22. Why was Ben nervous about going into the building?

- (A) He was in trouble.
- (B) He had to go in alone.
- (C) He was afraid of the dark.

23. What happened right after Ben opened the door to the building?

- (A) Ben's friends teased him.
- (B) Ben's mother called.
- (C) Ben's father came to pick him up.

「目標」と「内容」においては、より現実世界とのつながりが強調されていると言えるであろう。「聞くこと」の目標においては、以下のとおりである。

- ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
 イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。


「はっきりと話されれば」という部分においては、TOEFL Primary®のリスニングパートの音声力が力の測定に最適である。というのも、小学校の学習指導要領では、「ゆっくりはっきりと話されれば」となっているが、中学校では「ゆっくり」という表現がなくなっているのである。つまり英語を母国語とする話者の明確な発音で、自然なスピードの英語を聞かなくてはならないのであ

る。教科書に付属するリスニングCDは少々、ものによってはかなりゆっくりと話されていて、「聞くこと」の目標に対応できていない可能性もある。さらに「日常的な話題」「社会的な話題」とあるが、教科書では单元ごとに一つの大きなテーマに沿って進むことが多く、単一化しているが、TOEFL Primary®の設問においては、公園での遊び方や、宿題の説明、家族での会話など、場面が多

岐にわたり、しかもすべてが日常的なものや社会で小中学生が経験する場面を設定している。また、「必要な情報を聞き取る」「話の概要を捉え


る」「説明の要点を捉える」といった部分においても、TOEFL Primary®の様々な設問によってそれぞれの力を測ることができる。

14.



(A) She is buying a red rubber ball.
 (B) She is throwing a red rubber ball.
 (C) She is catching a red rubber ball.

1.



(A) The family is sitting next to the tree.
 (B) The family is cutting down the tree.
 (C) The family is decorating the tree.

「読むこと」においては次のように目標が示されている。

- ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた身近な文章の要点を捉えることができるようにする。

こちらにもスキミングやサマライズをすることを求めているが、「日常的」や「社会的」な話題の読み物とは何であろうか。英語の教科書の本文に出てくるような、対話文やとても短い何かの紹介のような文章に、中学生が日常で出会うことはあまりない。それならばTOEFL Primary®の問題で扱われるものはどうであろうか。TOEFL Primary®のSTEP 1では、誕生日会の招待状や遊園地での利用案内、公園での注意書きなど、生徒が日常で出会うような素材が多く使われている。またSTEP 2では時間割、友人や先生からのメール、工作の説明書き、遠足のしおり、環境問題などに関する紹介などが扱われており、現実世界との接点大切にされているほか、中学生が日本語で読むに値するくらいの長さの文章の中で、問われている必要な部分を見つけたり、話の概要を示したりする問題が設定されて

Westside Elementary School
This Week's Lunch Menu

Please remember: After eating, throw your garbage in the garbage can, leftover food in the bin, and place your tray on the cart.

	Meal Option 1	Meal Option 2	Appetizer	Dessert
Monday	Fried Chicken	Corn on the Cob	Mashed Potatoes	Muffin
Tuesday	Tacos	Chili	Black Beans	Almond Biscuits
Wednesday	Pasta	Sausage Pizza	Sweet Potato Fries	Yogurt and Granola
Thursday	Greek Salad	Lasagna	Garlic Bread	Ice Cream
Friday	Hamburger	Hot Dog	French Fries	Chocolate Chip Brownies

*All meals include an option for fruit cups (blueberries, apple slices, and strawberries) and vegetables (carrots, celery).

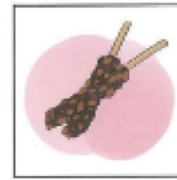
いる。

「内容」に関しては、どれだけ身についたかに主眼を置くのではなく、学んだことを理解して

実際に英語を用いることに言及している。確かに言語材料として文法のルールを知っているだけでは、「何ができるようになったか」という点においてあまり意味をなさない。どのような場面を使うのかという視点も重視しているのである。特に「思考力、判断力、表現力等」では「日常的话题や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること」が示されている。

さらに「言語活動及び言語の働きに関する事項」における「聞くこと」「話すこと」で示されているほとんどの内容がTOEFL Primary®の問題で見かけるものが多い。それぞれの例示する活動に対して、それらに対応するTOEFL Primary®の問題を示す。

Read the instructions. Answer questions 21 to 25.



Snack Time!

For a lot of people, the best time of the day is snack time. You get to sit down, relax, and enjoy your favorite snack. Today, you are going to learn how to make crunchy granola pretzel sticks. It is very delicious and easy to make. Are you ready?

What you will need:

- 1 package of dark chocolate chips
- 24 pretzel rods
- 1 cup of granola

Directions:

1. Place chocolate chips in a glass measuring cup.
2. Put the measuring cup in the microwave for 15-20 seconds.
3. Take the measuring cup out. Be careful before touching the cup because it might be a little hot.
4. Stir the chocolate until it is smooth.
5. Pour the melted chocolate onto one side of a large shallow dish, while leaving the other side empty.
6. Roll the pretzel in the chocolate, but only two thirds of the pretzel should have chocolate on it.
7. Let the chocolate drip off. Then sprinkle the granola onto the pretzel.
8. Place the pretzels on wax paper and let them cool for about 5 minutes.

Now when the next snack time comes around, you will be ready with this easy-to-make snack. If you do not want to wait for snack time, then you could make it as a nice present for a friend or sibling or to even share with your classmates.

聞くこと

- (ア) 日常的话题について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。
- (イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。
- (ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。
- (エ) 友達や家族、学校生活などの日常的话题や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

3.



(A)

(B)

(C)

4.



(A)

(B)

(C)

読むこと

- (ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする内容。

- (イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。
- (ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。
- (エ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。

このように新学習指導要領が例示する言語活動のほとんどが、TOEFL Primary®で設定されている問題に多く扱われているのである。教科書を使って指導するだけでは、なかなかこれほどの多くの活動をこなすことは難しいし、数が限ら

れてくると、生徒の力は本当にできるようになっているのかを確認することは困難になる。様々な場面の問題に出会わせて力を測ることは大切である。

Read the email. Answer questions 12 and 13.

To: Friends
From: Lina
Subject: Surprise Party

Hello everyone. Surprise party for Olivia will be this Saturday. She does not know about it, so do not tell her. Please come to my house at 3:00 p.m. on March 14th. On the 14th, Olivia is going to come over at 3:30 p.m. She thinks we are meeting to do homework together. But, we will all be there to surprise her for her birthday. She is going to love it, but remember – keep it a secret. My mom will make the cake and order pizza for the party. It will be a fun day.

Thanks,
Lina

12. What time should Lina’s friends come to Lina’s house?

- (A) 3:30 p.m.
- (B) 3:00 p.m.
- (C) 4:00 p.m.

13. What does Olivia think she is going to do on Saturday?

- (A) To have a birthday party with her family
- (B) To have a surprise birthday party with friends
- (C) To do homework with Lina at her house

SALE! SALE! SALE! EVERYTHING MUST GO!

ELECTRONIC CITY

This weekend it is our end of the year sale. Everything must go. TVs, smartphones, smartwatches, laptops...all of them must go!
Sale starts this Friday.

Friday	8:00 a.m. – 9:00 p.m.
Saturday	10:00 a.m. – 8:00 p.m.
Sunday	11:00 a.m. – 7:00 p.m.

Brand New TVs
30%-50% Off!!

Smartphones
Buy 1, Get 1 Free!

New Laptops
Buy 1, Get a Free Mouse

Cameras
Buy 2 lenses, Get 1 Free!

Smartwatches
Comes with free service!

NOTICE: With laptops, only ONE per customer

4. CEFR と日本の英語教育の位置関係

外国語学習のひとつの基準として、欧州評議会が発表しているCEFR (外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)があるが、これはカリキュラムや学習教材の作成、外国語運用能力の評価のために、長い研究を経て作られた基盤である。日本においても例外でなくCEFRを用いてCAN-DOリストの作成や、学校

間接続を意識したカリキュラムの作成に役立てられている。しかしながら、文言ばかりが増えていくばかりで、実際のところCEFRと日本の英語学習の位置関係が見えにくいのではないだろうか。図1には横軸に日本の学校教育における英語学習の内容を示し、縦軸にCEFRを示している。

2020年に文部科学省が公表したデータによると、中学でCEFR A1、高校でCEFR A2を目指していたが、目標の50%の達成を目指していたにもかかわらず達成されなかった。それぞれ44.0%、43.6%であったのだが、海外の英語学習者は中学でA2、高校でB1を目指して指導・学習されていることを考えると、もちろん日本でも近い将来この基準を目標とするであろう。これらの目標を達成するためには、CEFRの測ることのできるテストを多く受けたり、テスト対策をするこ

とが得策ではないのは誰しもが理解できると思われる。なぜならCEFRは英語の運用能力を測るものであって、知識や技能を測るものではないのである。つまり、テストを分析して挑戦するものではなく、日常生活や学びの場面において英語が使えているのかを証明するものなのである。

CEFRにおいて日本の中学生が目指しているA1、日本の高校生と世界の中学生が目指しているA2、世界の高校生が目指しているB1は次のように説明されている。

B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

上記のCEFRの内容を達成するためには、児童・生徒が家でコツコツと参考書を解くような学習では不可能である。学校等において、指導者が効果的な指導や教材を用いることや、他学習者とのやり取りの中で培われる力が大きい。では、学校教育の英語授業の現場で、児童・生徒の英語運用能力を高めるための指導がどれほどなされているだろうか。例えば、中学3年生で関係代名詞を教えながら、CEFRのA1やA2に匹敵する力を育てられているのかを考えてみてほしい。誤解を恐れずに言えば、学校での英語の指

導が、図1の中において、横軸方向ばかりに向かい、地平線すれすれを飛んではいないだろうか。学校での英語学習に応じて英語運用能力が向上しているのであれば、赤い矢印のように右肩上がりの角度が付いているはずなのである。

それでは、どのような指導や教材があれば、縦軸方向への伸びを得ることができるのだろうか。ひとつの方法として、TOEFL Primary[®]のスコア別Can-Doリストを参照することが効果的であろう。図1にTOEFL Primary[®]のCan-Doリストの内容を加えて図2として提示する。

図2 CEFRと日本の英語学習の流れとTOEFL Primary®のCan-Doリスト

CEFR											TOEFL Primary® Score	
熟練した言語使用者	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。	C2										
	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。	C1										
自立した言語使用者	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。	B2										
	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。	B1						テスト内容を大変よく理解し運用できている。 ・ものや場所、人、動作、考えを描写する一般的な単語やあまり一般的でない単語を幅広く理解することができる。 ・複雑な文や段落、長めの文章の意味を理解することができる。 ・複数の文や段落に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報を推測したり、要旨を特定したり、知らない単語の意味を理解することができる。 ・長めの文章から特定の情報を理解することができる。	テスト内容を大変よく理解し運用できている。 ・ものや場所、人、動作、考えを描写する一般的な単語やあまり一般的でない単語を幅広く理解することができる。 ・複雑な文や段落、長めの文章の意味を理解することができる。 ・複数の文や段落に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報を推測したり、要旨を特定したり、知らない単語の意味を理解することができる。 ・長めの文章から特定の情報を理解することができる。	115	114	113
基礎段階の言語使用者	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。	A2			簡単な説明や指示、会話、メッセージを理解している。 ・身近なテーマや動作を描写する、あまり一般的でない単語を理解することができる。 ・会話における返答を理解することができる。 ・情報が明確に述べられていないメッセージやストーリー、情報の入った文章の要旨やテーマを推測することができる。 ・長めの会話に点在する情報を総合的に捉えることができる。		簡単なストーリーや、年齢に合ったアカデミックな文章を理解している。 ・ものや場所、人、動作、考えに関する一般的な単語を幅広く理解し、あまり一般的でない単語も数多く把握することができる。 ・複雑な文や段落の意味を理解することができる。 ・長めの文や複数の文に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報や用紙、知らない単語の意味を推測することができる。 ・文章から特定の情報を理解することができる。		簡単なストーリーや、年齢に合ったアカデミックな文章を理解している。 ・ものや場所、人、動作、考えに関する一般的な単語を幅広く理解し、あまり一般的でない単語も数多く把握することができる。 ・複雑な文や段落の意味を理解することができる。 ・長めの文や複数の文に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報や用紙、知らない単語の意味を推測することができる。 ・文章から特定の情報を理解することができる。	112	111	110
					短い説明や表示に記述されている情報、短いメッセージを理解している。 ・ものや場所、人、動作、考えに関する一般的な単語や、一部のあまり一般的でない単語を理解することができる。 ・複雑な文の意味を理解することができる。 ・長めの文章や違う文章に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報を推測したり、要旨を特定したり、知らない単語の意味を理解することができる。 ・文章から重要な情報を見つけることができる。				109	108	107	
					短い簡単な説明や会話、メッセージを理解している。 ・日常会話で使用される一般的な表現を理解することができる。 ・聞いたことのある単語を使用し、重要な単語を繰り返し述べた、簡単な指示を理解することができる。 ・重要な情報を繰り返し述べたメッセージの目的を理解することができる。 ・重要な情報を明確にかつ繰り返し述べた、簡単なストーリーの要旨を理解することができる。		短い説明や会話、メッセージを理解している。 ・日常会話で使用される一般的な表現を理解することができる。 ・聞いたことのある単語を使用し、重要な単語を繰り返し述べた、簡単な指示を理解することができる。 ・重要な情報を繰り返し述べたメッセージの目的を理解することができる。 ・重要な情報を明確にかつ繰り返し述べた、簡単なストーリーの要旨を理解することができる。				106	105
	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。	A1		話し言葉の一部の聞き覚えのある単語を認識し始めている。 ・学校、自宅、家族、色、体の部分、動物など、身近なカテゴリーの物や人に関する単語を理解することができる。 ・簡単な文に含まれる、動作を表す単語を認識することができる。		単語や一部の短い説明を理解し始めている。 ・自宅、学校、家族、色、体の部分、動物、行動など身近な分野の一般的な単語を理解することができる。 ・簡単な文章を理解するための重要な単語を認識することができ、現在の日常的な動作を理解できる。				103	102	101
				話し言葉のもの、場所、人など、一部の聞き覚えのある単語を認識し始めている。 ・視覚的情報が与えられれば、聞き覚えのある単語を理解できる。		一部の基本的な単語を認識し始めている。 ・視覚的情報が与えられれば、基本的な単語を認識することができる。				100		
			A1未満									
			1	2	3	4	5	6	1	2	3	
			小学校			中学校			高校			
			Hello. How are you? How many? I like ... What do you like? ALPHABET This is for you. What's this? Who are you? (Let's Try 1)	Hello, world! Let's play cards. I like Mondays. What time is it? Do you have a pen? Alphabet What do you want? This is my favorite place. This is my day. (Let's Try 2)	I have many yo-yos. I can jump high. She is a cook. I get up at 7:00. I play soccer on Mondays. It is in the box. I want to go to Kenya. (Crown Jr. 5 三省堂)	We are from India. We have Children's Day in May. I went to Hawaii. I am hungry. It was green. I want to be a vey. At This Moment. (Crown Jr. 6 三省堂)	be動詞 一般動詞 助動詞can 疑問詞who 三人称単数現在 疑問詞which 現在進行形 疑問詞whose 一般動詞の過去形 be動詞の過去形 助動詞will 未来表現 (New Crown 1 三省堂)	接続詞when 接続詞that 接続詞if 不定詞 There is/are 動名詞 SVOC SVOO 比較表現 現在完了 (New Crown 2 三省堂)	現在完了進行形 受動態 分詞の修飾 仮定法 関係疑問 (New Crown 3 三省堂)	分詞の形容詞的用法 関係代名詞 関係副詞 分詞構文 仮定法過去 部分否定 仮定法過去完了など (Crown EC 1 三省堂)	関係代名詞非制限用法 関係副詞の非制限用法 完了進行形 強調構文 複合関係詞 不定詞の完了形 結果を表す不定詞 無生物主語の他動詞構文 独立分詞構文など (Crown EC 2 三省堂)	

CEFR

※CEFR (Common European Framework of Reference for Languages = ヨーロッパ言語共通参照枠)とは欧州評議会によって公開された、言語能力の枠組みです。

指導要領に基づく
言語材料等

「3.中学校学習指導要領と関わって」で示したような問題が登場するが、それらの問題の場面設定や話し手・書き手との関係を、TOEFL Primary®のCan-Doの内容を意識しながら見てみると、普段の授業での指導や教材がどのようなことが望ましいかが見えてくる。もちろん、

今ある教科書は6社とも大変趣向と工夫を凝らしているので、新たに教材を用意することは必須ではなく、それらの中のコンテンツを、どのように教え、どのような場面設定の中でどんな体験をさせていくのかを、指導者が学習者の様子に合わせて考え実践すればよいのである。

5. 学習者の学習と指導者の指導に関わって

日本では古来より、超えたか超えなかったかに焦点を当てがちな文化を持っている。剣道やそろばんにしても、段や級の検定試験を設定し、できるのかできないのかを明確に示してきた。しかしながら、英語の学習はどうだろう。単にできる、できないで判断することは、学習者の意欲を高めるのに十分とは言えないだろう。それこそが英語嫌いや学習への興味を薄れさせる原因となっているのではないか。中学生のような発達の段階や学習の段階においては、できることは何か、できないことは何かを示した方が、自分の得意なことを知り、さらに自分を伸ばすには何が必要なのかを知ることができる。できないのは当たり前。だけどこれからできるようになっていこうとする学習者を育てるための手段としては、合格・不合格で表す試験ではなく、自分の力がスコアで示され、できることと次へのアドバイスがスコアレポートで示されることは有効であると考えられる。

心配されることはいくつかあるだろうが、一つの大きな心配はテストに耐えうる語彙力があるかであろう。例として、韓国で使用されているTOEFL Primary®の公式問題集の1回分の試験問題を取り上げて分析した。正答に至るために有効な情報となる語彙を抜き出したところ、リーディングパートとリスニングパート合わせて379語であった。これらには、elephant, school, treeなどの名詞や、cook, find, playなどの動詞、happy, long, newなどの形容詞、in, on, underなどの前

置詞が含まれる。小学校中学年で用いられているLet's Try 1と2について、指導書から指導すべき語彙と指導者が指導において発する表現に含まれる語を見てみると約650語となる。小学校4年を終えるまでに見聞きした語が、先ほどの379語にどれくらい対応しているのかを確認したところ154語であった。つまり小学校4年が終わるまでにTOEFL Primary® STEP 1で出題される40.6%は、今までに出会ったことのある語である。さらに5・6年で使われる検定教科書6社のうち、東京書籍のNew Horizon Elementary 5及び6と、三省堂のCROWN Jr. 5及び6で扱われる語を調べてみた。Let's Tryで学習した数を合わせると、東京書籍においては216語(57.0%)、三省堂においては222語(58.6%)であった。中学校でも検定教科書6種類から東京書籍のNew Horizonと三省堂のNew Crownの3年間で学習する語を見てみると、東京書籍においては310語(81.8%)、三省堂においては338語(89.2%)であった。つまり中学校の始まりにおいては、テストの全体の60%近くが理解可能な語であり、その後徐々にわかる語が増え、中学校の英語の学習を終えるころには80%~90%の語を理解してテストに解答することとなる。中学校1年から、自分のできることを確認しながらだんだんとできるようになっていく自分の力を実感するにはよいペースである。また上位のTOEFL Primary® STEP 2の受験も、学習者の学習の段階に合わせて検討

することも必要であると考え。

表1 1回分のTOEFL Primary®に含まれる語のうち各教科書で学習する語の数と割合

3・4年	5・6年		中学校	
文部科学省	東京書籍	三省堂	東京書籍	三省堂
Let's Try	New Horizon Elementary	CROWN Jr.	New Horizon	New Crown
154	216	222	310	338
40.6%	57.0%	58.6%	81.8%	89.2%

※TOEFL Primary®に含まれる語の数は、韓国で使用されている公式問題集でカウント。
 ※それぞれの語の数には、それまでの教科書で学習した語を含む。

さらに、問題文も英語で書かれているという点においても心配があるかもしれない。もちろんTOEFL Primary®はアメリカのETSが作成する、英語を母国語としない人を対象として作っており、世界の多くの国で同じ問題を提供していることから、もちろんすべてが英語である。しかし新学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」において「エ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際コミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。」と示されている。生徒にとって英語を英語で学ぶのは、慣れていないはずのことであるので、心配には及ばないし、いくつか事前に練習問題を解いて入れば、何を尋ねられている問題なのかはある程度想像がつく。

また、指導者にとっても外部テストを実施するメリットがあると考えられる。ちょっと前までは、英語の授業で扱った内容だけをテストで問い、「何ができるようになったのか」ではなく、記憶力

や要領の良さばかりが測られるようなテストもあったかもしれない。しかし新学習指導要領は現実の場面において、何ができるようになったのかを問うものである。あまり大きな声では言えないが、筆者の指導する「オールBで3」のとある生徒がTOEFL Primary®で満点を取った。恥ずかしながら冷や汗をかき、自身の指導と評価について襟を正し、PDCAサイクルを用いて授業と評価の指導改善を試みた。こんな筆者であるので偉そうなことは言えないのであるが、日本全国の先生方は同じ経験をしないう自信があるだろうか。評価とは学習者の力を示すものであると同時に、学習者にとっても指導者にとっても自身を顧みて改善する一つの方法である。今一度先生方が作られているテストや、学校で採用しているテストが、本当に生徒の「何ができるようになったか」を測るテストであるのかを確認されてはいかがだろうか。

6. おわりに

英語を学ぶことは少々難しいことではあるかもしれないが、正しい道を進めば超えられないものではない。それよりも、英語を使ってどんなことがしたいのかということに胸を膨らませて学習することが大切にされることであってほしい。その

ためには自分は何ができるようになったのか、自分は生徒に何ができるようにしてやれたのかを考えながら、生徒と先生がともに前に進む姿を期待する。

Danke Sehr